

要望も予定しております。



## 高齢者福祉

次に、高齢者福祉について申し上げます。

本町の七月三十一日現在の高齢化率は、三十五・二パーセントとなり前年同期と比べ〇・八六ポイントの増であります。特に75歳以上の後期高齢者の割合が高くなっております。

一般に、後期高齢者の増加は、認知症高齢者が増えると予測されており、本町においても徘徊等による行方不明者が発生しており、この対応が求められております。

保健所単位で協議会は設置されておりませんが、より迅速な対応を図るため、役場内に総務課、町民課、消防で構成する組織を設置いたしました。今後は、認知症による徘徊が危惧される高齢者の情報収集と、情報の管理及び提供、迅速な捜索活動ができる体制づくりを進めて参ります。



## 児童福祉

次に、児童福祉について申し上げます。

新聞等には、連日保護者による児童の虐待、養育放棄等痛ましい事件が報道されております。

児童の権利を守り、保護者のいない児童又は保護者に監護させることが不適当な児童の適切な保護を図ることは大切なことであり、このような児童に対して、保護者の指導と迅速な保護を行なうため、函館児童相談所と連携し、関係機関の協力をいただきながら、要保護児童対策地域協議会の設置に向け協議して参ります。

## 農業関係

次に、農業関係について申し上げます。

家畜の主たる飼料作物である牧草の生育は、四月下旬からの好天に恵まれたことにより、一番牧草は良質で平年並

みの収量となりましたが、二番牧草は七月上旬からの高温により干ばつ気味となり、八月一日の調査では平年をやや下回る収量となっております。また、サイレージ用トウモロコシの生育状況は、六月下旬からの小雨により生育が心配されましたが、八月一日の調査では、平年に比べ六日早い生育となっております。

生乳生産量は、一月から七月まで七千五百四十二トンを出荷し、前年に比べ四・八パーセント、乳代は、五億二千万二千円で前年に比べ五・四パーセントといずれも減となっております。

また、黒毛和牛につきましては、一昨年九月から雌牛を中心に高値で安定し、一月から七月までの販売頭数は百七十九頭、販売額は八千四百二十九万円で、前年に比べ販売額で十二・四パーセントの減となっておりますが、一頭あたりの単価は、二・三パーセントの増となっております。

野菜の一月から七月までの販売額は、六百四十三万二千円で四月下旬からの好天に恵まれたことにより、前年同期に比べ四十六パーセントの大幅な増となっております。

平成十八年度より北海道農業開発公社に委託実施しております共立・蔵岱牧場草地整備事業の平成十九年度分の進捗状況は、九月中旬までに両牧場の草地改良整備を終え、部分放牧をし、牧草の活着状況を確認後、今年度分の引渡しをする予定となっております。



なお、道と公社の補助事業調整により、平成十九年度と二十年度の事業年割率の変更に伴い、平成十九年度事業費